



一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2022.10 秋季号





一般社団法人 大日本武徳会



一般社団法人

# 大日本武徳会

役員名簿

監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	代表理事
坂本 俊一	藤井 正巳	中田 浩大	上村 雅彦	渡邊佳代子	山田 文典	竹田 豊	濱田 鉄心

武種別・武道執行専門委員名簿 (順不同)

村田 雅人	石本 平	村上 亨	松本 邦典	山田 茂	北川 昭	滝山 信之	小林 守	成田 正博	榊田 敏弘	井本 廣志	東出 順一	長田 茂範	中森 浩大	中田 裕蔵	平林 邦治	柳田 春彦	落合 正信	桶村 正章	市村 正巳	藤井 楠城	山本 武太	中田 鉄心	濱田 鉄心	居合道
-------	------	------	-------	------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----

齋藤 勝則	小田 尚幸	伊藤 正樹	橋本 孝生	松本 和清	長谷川 安輝	木下 賢司	加藤 敏夫	杉生 闡祐	小松 秀敏	安藤 肇	西村 竹生	渡邊 祥正	高木 宏造	平松 則夫	松村 學	伊藤 樹	戸田 輝	山口 峻	山野 正	樫野 代子	渡邊 佳子	菓子野 三恵	木下 公子	森内 一藏	山本 勇
-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	-------	-------	--------	-------	-------	------

上村 雅彦	藤井 正巳	村山 盛哲	二又 静明	早坂 義文	川村 忠義	平野 秀雄	永井 節哉	宮園 國男	北川 隆茂	北野 雄子	木下 淳一	太田 順一	長田 茂範	中森 浩大	中田 裕蔵	杉野 至寛	竹田 武豊	中田 鉄心	濱田 鉄心	古武道	美野 清孝	樋口 友視	石原 朋英
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------

花元 浄一	大沼 彦彦	上村 雅彦	齋木 泰徳	道観 世慶	濱田 鉄心	空手道	高島 伸幸	北野 隆雄	濱田 鉄心	柔術	杉生 闡祐	落合 春彦	長田 順一	中森 茂範	市村 正章	深野 良興	中田 武太	濱田 鉄心	剣道	樋口 勉
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	----	------

高島 伸幸	北野 隆雄	濱田 鉄心	柔道	濱田 鉄心	合気道	佐藤 哲治	中西 智美	松尾 一	坂本 俊一	藤本 准三	安藤 貞男	松村 哲人	中田 直心	田中 天藏	森内 一藏
-------	-------	-------	----	-------	-----	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

## 武徳の保存継承

濱田 鉄心

本会は来年度創立百二十八周年を迎えますが、ここまで我々が真摯に歩んで来られたのは他でもない、前総裁を初めとする多くの先達の諸先生方、東伏見慈晃総裁猊下並びに会員の皆様方の献身的な情熱に満ち溢れたご尽力とご活躍による賜物です。特に戦後の想像を絶する過酷な厳しい状況において、艱難辛苦の時代を乗り越えて本会を再建された多くの先生方にはただただ感謝の言葉しかありません。私達はこの半世紀以上、目まぐるしい社会変遷の時代と共に多くの荒波や風雪を乗り越え本会の発展の為、粉骨砕身の努力をしてきました。二〇一二年に念願の法人化が実現して以来もその歴史的な伝統を大切に守り、育ませてきました。日本伝統武道の保存継承は本会の最重要課題であり揺るぎない武徳の使命でした。この目的を完遂していく為に我々は新たな決断を下し、未来志向で前進していく事に本会の指針を定める事にしたのです。

本年度四月には歴史的な節目である第六十回全国武徳祭が開催され、百数十名の先生方の参加による堂々とした素晴らしい演武を拝見させていただきました。本大会はご逝去された桑原兵充先生の追悼大会でもあり、多くの先生方は実に気魄の籠った武魂の神髄に迫る演武をされて心に残る感動的な大会でありました。それに引き続いて七月には夏の酷暑を乗り越えて、多くの伝統武道を志す青少年達が各地より武徳殿に集結し、第二十七回全国青少年武徳祭を大いに盛り上げてくれました。コロナ禍の中、これ等の主催事業が無事安全に成功裡を修める事が出来たのは、正に本会会員の皆様と関係者各位の感染防止対策に対する絶大なご協力とご尽力の賜物であると思います。この紙面をお借りして改めて厚くお礼申し上げます。さらに秋の主催事業として十月十六日には歴史的節目となる第三十回平安神宮奉納古武道演武大会と十二月四日に第六回青龍殿国宝青不動明王奉納古武道演武大会が開催予定となっております。多くの先生方がご参加していただけの事を期待しています。

先だつて六月二十六日に開催された臨時社員総会で全会一致により来年度第六回世界武徳祭の実施が決議承認されました。この主催事業に関しては新型コロナウイルス

ウイルスによる公衆衛生上の問題の為、二〇二〇年より延期されていた一大イベントがようやく実現される希望の光が見えてきた事になります。しかしながら、この事業を無事安全に実施するには多くの課題や問題点が山積している事も確かです。数百名の海外支部からの参加者が入国するに際しても、政府の水際対策の問題や査証認可の必要性など多くの難しいハードルが存在します。感染防止対策を有効に実施する為、参加者に対して滞在中の然るべき行動制限が必要になってきます。感染防止の観点から適切な抗原検査も実施されなければなりません。四月二十八日の開会式、二十九日の第六回世界武徳祭並びに第六十一回全国武徳祭に關しても万全の感染防止対策が敷かれる必要があります。しかしながら、これ等の対策は先の先という戦略的見地から開催数カ月前に各自が用意周到に準備態勢に入らなければ困難であると思われれます。従つて国際部の参加者には出発数カ月前から自らの行動制限やPCR検査、最上の体調管理などを要請します。本部の先生方にも感染防止対策には極力ご協力をしていただきたく切にお願い申し上げます。

海外の参加者は今回の訪日に関して多くのリスクと犠牲を払つて参加する覚悟です。それは彼ら自身が志している武徳の保存継承に対する純粋な熱意と言えます。歴史的な旧武徳殿と共に武徳の絆を一層力強く育み、その努力と成果を称え合い、かけがえのない感動を分かち合える事は大日本武徳会を愛する武道家の無二の宝となります。それはコロナウイルスという恐怖心乗り越えて来なければ実現出来ない事です。そこに集う世界の武道家は正に真の武士道精神を実践するために決意し、自らの試練に対して挑戦する強い意志を持っていると信じています。ある意味では今回の世界武徳祭は、その勇氣ある武道家たちの入魂の儀式であると言えます。多くの期待と夢と希望を齎す有意義な歴史的大会行事となるには、本会会員の皆様と一丸となつて注がれる熱い情熱にかかっています。皆様方の一層のご協力、ご尽力を賜り本会の崇高な目的趣旨である武徳の保存継承が力強く実現されることを、心より祈願致します。



# 第六十回全国武徳祭

日時 令和四年四月二十九日（金・祝）  
場所 京都市武道センター・旧武徳殿

# 大会次第

◎ 平安神宮祈願祭 4月29日午前8時20分より

## 平安神宮

修玉奉	申納	拝演	礼武	居合道 教士七段	濱井	田本	鉄敏	心弘
-----	----	----	----	----------	----	----	----	----

**開 会** 午前9時45分開始  
総合進行委員長：藤井正巳

総裁・来賓入場	開会宣言	国歌・黙禱	優勝旗の返還	大会検証委員長	竹田	豊
個人最優秀賞桑原兵充杯の返還	開会挨拶	大会式辞	大会祝辞	大会委員長	濱田鉄心	東伏見慈晃総裁
大会祝辞	大会祝辞	演武場の注意		来賓	京都府知事	京都市長
				大会管理運営委員長	山田文典	

## 演 武

祓いの儀	古武道演武	剣道形演武	納めの儀	居合道 範士八段	伊藤	學
				居合道 範士八段	山田	文典

**閉 会 式** 午後2時50分

選手整列	表彰評言	閉会の辞	閉会の宣言	大会委員長	東伏見慈晃総裁	竹田豊
				大会検証委員長	濱田鉄心	藤井正巳
				大会委員長		
				大会進行委員長		

## 創立127周年記念第60回全国武徳祭 表彰

### 団体最優秀賞

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会

### 個人最優秀賞 桑原兵充杯

大阪府 武徳和魂会 高島 伸幸

### 京都府知事賞

長野県 古武道唯心会 平林 裕蔵

### 京都市長賞

石川県 北陸連盟 修童館 井本 敏弘

### 総裁賞

神奈川県 天真正伝香取神道流 杉野 至寛

### 理事長賞

千葉県 双水執流武尊会 伊藤 學

### 団体特別賞【18団体】

大阪府 虚心流居合剣法 弓刀錬心館道場

愛知県 日本戸山流居合道

茨城県 水府流

石川県 北陸連盟 修童館

千葉県 双水執流武尊会

兵庫県 日本古武道直心会

千葉県 日本伝千葉一心無双流居合兵法 千葉剣心会

栃木県 無双直伝英信流 英信館

大阪府 誠道館 虚心流居合剣法

三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会

京都府 日本武道空手協会

福岡県 国際部 九州国際大学 武心館

大阪府 日本古武道 武公館道場

大阪府 日本古武道 誠慧塾

京都府 直伝円心流居合道

兵庫県 心月無想柳流柔術 古武道甲武館

長野県 古武道唯心会

京都府 至誠館

### 招待団体特別賞【4団体】

鹿児島県 薬丸自顕流顕彰会

大阪府 一般社団法人日本古武道正統派居合道連合

無双直伝英信流 明心館道場

三重県 新陰流兵法 碧燕会

大阪府 関西大学体育会 古武道部

### 個人特別賞【参加者全員】





# 大日本武徳会創立百二十七周年記念 第六十回全国武徳祭報告

至誠館道場 藤井 正巳

令和四年四月二十九日、旧武徳殿に於いて、大日本武徳会創立百二十七周年記念 第六十回全国武徳祭がとり行なわれました。

午前七時武徳殿に集合し設営準備にはいりました。

八時二十分より平安神宮に於いて祈願祭が執り行われ、修祓、玉串拝礼、奉納演武が執り行われました。

九時すぎに東伏見慈晃総裁がご来場になられ、九時四十五分より上村雅彦範士の太鼓の合図にて、開会式ははじめられました。

国旗、武徳会旗に対し礼。渡邊理事のチャームを合図に大日本武徳会の先師に黙祷を捧げました。

東伏見慈晃総裁より大会式辞があり、京都府知事、京都市市長より大会祝辞をいただきました。

本部役員の先生方は、濱田代表理事、竹田理事、山田理事、渡邊理事、上村理事、中田理事、藤井監事、坂本監事であります。

祓いの儀は伊藤學範士による双水執流の素晴らしい演武で始まりました。

続いて濱田代表理事による空手道の演武、日置流印西派大弓術、戸山流居合道、水府流、修童館A、天真正伝香取神道流、沖繩又吉古武道、双水執流、日本古武道直心会、千葉剣心会、英信館、誠道館、剣心会、修童館B、無雙直傳英信流、神和会、弓刀錬心館虚心流剣法、日本武道空手協会、九州国際大学、明心館道場、日本古武道武公館と続き、昼休みにはいりました。

十三時より午後の演武が始まりました。

直伝円心流に始まり、新陰流碧燕会、心月無想柳流甲武館、松濤館流、誠慧塾誠道館、国際部、関西大学体育会古武道部、古武道唯心会、薬丸自顕流、武徳和魂会、修童館C、至誠館と続き素晴らしい演武の連続で納めの儀を迎えました。

納めの儀は、山田文典範士の一心無双流の息もつかせぬ演武で締めくくられました。

## 御礼の御挨拶

創立127周年記念第60回全国武徳祭も皆様の多大なるご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人大日本武徳会

## 大会 参 与

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御 芳 名	御 芳 名
濱田 鉄心 様	中田 武太 様
山本 楠城 様	竹田 豊 様
藤井 正巳 様	北野 隆雄 様
柳田 邦治 様	杉野 至寛 様
山口 峻輝 様	岩田 一政 様
村山 盛哲 様	石本 一平 様
坂本 俊一 様	北川 茂 様
伊藤 學 様	樋口 友視 様
木下 公子 様	森内 一藏 様
株式会社 六盛 様	日本古式武道協会 拳正会 様
山田 文典 様	滝山 昭 様
大塚 熙夫 様	杉生 闌祐 様
桶田 正信 様	土屋 恭之 様

続いて閉会式へと移りました。表彰においては、整然と、順序良く適切に流れるような素晴らしい表彰式であり、多くのものを学び取りました。竹田豊範士による講評があり、濱田鉄心代表理事による閉会の辞となりました。上村雅彦範士の太鼓で終了しました。全員で武徳殿内にて記念写真撮影をおこないました。今回は、コロナ禍の中更に大雨の中、皆様の卓越した英気が発揮された大会となりました。

## 二度目の団体最優秀賞を受賞して

一心無双流居合道剣心会

総師範

山田 文典

## 団体最優秀賞を受賞して

一心無双流居合道剣心会

井上 善之

当流派は、コロナ禍の中、粛々と感染防止対策を徹底し、各支部道場での稽古はもとより、夏冬の全体稽古会、昇段審査会を開催して修練を重ねてまいりました。それは、延期を重ねている世界武徳祭を目標として会員一同が、楽しみにしている外国人武道家を対象とした居合道研修会のホスト団体として指名されていることから、日本伝統武道の素晴らしさを伝えるに当たり技量低下は絶対許されないと心に決めて取組み、その結果、会員も微増するなど活気を維持しての今回の「大日本武徳会創立百二十七周年記念第六十回全国武徳祭」となりました。

私が、本会理事会において、管理運営委員長に選出されたことから、武徳祭開催に当たり、会場の入場監視や衛生管理を徹底する管理運営委員が多く必要なことから協力を依頼したところ、ほぼ全員が名乗り出てくれ、本流派の演武する割り当て時間以外、全員が埋まる形になりました。彼らは、演武以外の武徳祭運営との連携も自然に生まれ多くの有意義な経験をしたと思います。

逆に使役についたことから演武前の十分な調整もできないままの本番演武となりましたが、平素の実力が発揮され、先頭で演武する私からは、周囲から伝わる気迫籠もる演武や礼節を重視した立ち居振る舞いは十分なものであり、その結果、団体最優秀賞に結びついたものと考えます。しかし、我々の目標は、来年の世界武徳祭です、更なる修練を重ねて参りますので、先生方ご指導よろしくお願い申し上げます。



※写真撮影時のみマスクを外しています。

凜とした静寂と気合いに包まれた武徳殿において、記念すべき第六十回全国武徳祭が開催されました。コロナ禍が未だ収束を見通せない中でも、東北、北陸、関東、関西、九州の各地から大日本武徳会所属の二十五団体が集結したのです。私は初めて参加し、全国にこれほど多くの仲間がいることに正直驚きました。当日は折しも肌寒く、しかも大雨でした。しかし武徳殿の中では、それを吹き飛ばすかのような気迫こもる演武とそれを見守る皆さまの熱気がありました。また、日本武道の奥深さを感じる瞬間でもありました。長い年月をかけて、それぞれの流派で受け継がれ、洗練されてきた技や形のキレ、無駄のない動きも感じました。そして何よりこの日のために鍛錬を積んでこられた各団体、各道場によって、素晴らしい演武が披露されたのです。

その結果、わが一心無双流居合道剣心会に団体最優秀賞を与えていただきました。これは、剣心会の一員として名誉なことであると同時に、私自身に、この賞に恥じない修練が求められるものと重責を感じております。そして、更なる技の鍛錬と形の習得に磨きをかけ、来年の全国武徳祭に賞旗を返還する、まさにその場に居られるよう努力を続けていく所存です。

また、武道の流派や種目の違いはあっても、共にその道を求めておられる皆さまと、来年も、我々の聖地であります武徳殿に集まり、日々の練磨の結果を披露することを目標にして、今日のこの日からまた、稽古に励んでいきたいと思っております。

個人最優秀賞・桑原杯の  
受賞御礼を申し上げます

心伝流 高島 伸幸

今大会でこの様な栄誉ある賞を頂き大変光栄に存じます。しかし其の実は、「もつと精進しなさい」という叱咤激励をいただいたと受け止めております。

二年余も逼塞した生活を強いられ、思うように稽古も出来ず、技の伝承を危惧され、苦しんでいる先生もいらつしやるかと心中察し申し上げます。そういえば、私どもの村の獅子舞が途絶える事になりました。これは少子化も影響していますが、とどめを刺された形に成りました。伝統文化にとって本場に大きな試練が続いています。文化とは民族が永き年月生き繋いできた証であり民族の姿そのものであると思っております。悲しくて悔しくて言葉に表すことも出来ません。



しかし我らにとつての救いは、此処に志を同じくする、気概のある先達の先生方が私等後輩に灯りを灯し続けて下さることです。先生方には改めてご指導ご鞭撻を、心よりお願い申し上げます。と共、万難を排し大会開催にたどり着かれた本部の先生方皆様へ感謝申し上げます。

京都府知事賞を頂いて

古武道唯心会 平林 裕蔵

創立百二十七周年記念第六十回全国武徳祭、大雨の中無事終了。閉会式表彰、第一番に私の名前が呼ばれたふた返答が遅れました！全く予期せぬ事に失礼しました。あらためてありがとうございます。新型コロナに振り回されたこの三年又私が参加した武徳祭の中でもこのよう雨降り初めて、外にも出られない降り、しかし演武はいずれも力強く、品格・風格ある演武。私は武道居合に入門して幸い良き師仲間恵まれ、亡き師、先生方に感謝。武徳会に入会させていただき感謝。これからも少しでも武徳会のために信州の山の中遠距離ですがお役に立つ事があればお手伝いして参りたいと思えます。最後に今回の受賞有難う御座いました。これからも「全国武徳祭」が末永く続くことをご祈念申し上げます。



高段者審査会 合格者

【居合道・古武道】

六段 内藤 誉

六段 浦上 則國

六段 杉原 陽一

七段 小松 秀敏

八段 樋口 勉

八段 岩田 一政

【空手道・沖縄古武道】

七段 佐藤 哲治

八段 上村 雅彦



## 令和四年度

## 春の高段者審査会実施結果報告

一心無双流居合道剣心会

総師範

山田 文典

## 一 実施への道程

本審査会は、コロナ禍における最初の一步の取り組みとして二年間の活動中止の長いトンネルを抜けた初めての行事として開催し、成功を収めた令和三年の秋の高段者審査会に続く、二つめの行事である。本審査会は翌日に控えた大日本武徳会創立百二十七周年記念第六十回全国武徳祭という大きな節目の大会の前哨戦に位置する行事になった。更に来年、令和五年に予定される世界武徳祭へと続いていく本会にとり大きな意義のある行事となった。

## 二 事前の審査員研修会の実施

今回の高段者審査会は、開催日の午前中、武道センター会議室において審査員の事前打合に加えて、研修会を開催した。同会は、濱田鉄心審査委員長が中心となり、「審査員の眼力」をテーマとして意見を交換し、委員からは、

- ・抜き付けから斬り下げ残心の重要性
- ・「気の流れ」
- ・気迫に満ちた風格
- ・ぶれのない姿勢、技
- ・武道への情熱
- ・「睨み」への反応 等

審査員と受審者が真剣勝負をする場として行うことに意思統一を図った。

## 三 大日本武徳会本部高段者審査会要項

(一) 目的趣旨：本会は、内規に規定された伝統武道保存継承の目的趣旨を達成する為、本会認定の高段者審査会を実施する。その主たる審査会の目的は本会高段者の品格と高い技術の質的向上を促し受審者に対して適切

な評価を下すことにある。さらに本会審査会を通じて日本伝統武道の総合的な発展を促すことにある。

(二) 審査目的：受審者に対して適切な審査を実施し高段者の品格と高い技術の必要性を促す。審査基準の質的向上に促進させると共に審査委員の主観的・客観的な評価に対して適切な理解と合意が得られること。

(三) 審査方法：審査委員長は、受験者に関する技術的な経歴や本会の武道発展への貢献度に対して熟知すると共に武道家としての将来的な総合的評価も検討する。

審査委員長は、その武種における審査の全体的な監督者として事前に審査委員全員と協議し、審査項目について適切なアドバイスをする。

審査委員長は、所定の審査表の評価内容の方法について審査委員と打ち合わせをする。審査統括委員長は審査委員長を兼任する場合がある。審査委員長は、受験者に対して審査項目を正確に伝達すると同時に、必須演武形についてその本数、難易度等について説明する。受験段位によってその審査内容は高度になる。本数は、必要に応じて審査委員長が総括審査委員長と協議の上、決定する。居合道審査は、真剣を使用することとする。真剣でない場合は、受験することができない。

(居合道六段：上級形五本、七段以上：最上級形五本～七本)

(空手道六段：上級形一本～二本、七段以上：最上級形二本～三本)

(古武道六段：上級形一本～二本、七段以上：最上級形二本～三本)

なお、特殊な古武術(槍術、杖術、弓術、長刀術等)に関しては、個別の審査を実施すること。(古武術の武器は伝統武道として適切なものとし、審査前に審査委員長が点検しなければならない) 審査結果は、審査委員長が審査委員とその評価について協議した上で総括委員長に報告する。

## 四 綿密な事前準備

(一) 参加者全員が事前検査を実施

本部署員、審査委員及び受験者が、前日、前々日から検温を励行し感染防止に万全を尽くす。

(二) 当日朝に抗原検査の実施

上記同様、関係者全員に抗原検査キットを購入、配布し、当日の感染確認を実施するとともに「連絡先確認表」を提出させ、感染者発生時の連絡体制を確保した。

五 実施状況

(一) 開催日時

令和四年四月二十八日(木) 午後一時十五分から午後二時五十五分の間

(二) 開催場所

京都市武道センター内「旧武徳殿」

(三) 審査員、役員(敬称略)

ア 審査員総括委員長

濱田鉄心

イ

空手道・古武道審査委員

審査委員長・濱田鉄心

審査委員・竹田豊、坂本俊一

補佐・渡邊佳代子

ウ

居合道審査委員

審査委員長・山田文典

審査委員・杉野至寛、藤井正己、山本楠城、木下公子、長田順一

補佐・中田浩大

エ

役員

進行役・渡邊佳代子

記録担当・中田浩大

(四) 受審者

ア

空手道・古武道二名(七段一名、八段一名)

イ

居合道六名(六段三名、七段一名、八段二名)

合計八名

(五) 式次第 省略

六 審査結果

(一) 古武道・空手道 合格者二名(七段一名、八段一名)

(二) 居合道 合格者六名(六段三名、七段一名、八段二名)

(三) 審査受験内容(審査員講評まとめ)

参加者は、コロナ禍の中、創意工夫を行って稽古を継続してきた指導的立場にあり、審査において平素の修練結果は、円熟した気迫に満ちあふれ

七 全体評価と今後の展望

た演武が繰り広げられ、受審者全員が合格した。

今回の高段者審査は、コロナ禍の中を突き進み、将来の新たな指導者となる人材の育成につながる一大行事として成果を結びつけ、次の時代へ向かう「一般社団法人大日本武徳会」の発展の歩を進める結果となった。

統括審査委員長は、審査閉会の辞として「本日の審査は、日本伝統武道の魅力が光る技と心が感じられる立派なものであった。しかし、大日本武徳会の初代理事長である大野熊雄先生が『武道とは、頂点のない稽古の積み重ねである』と言われていますとおり、これから果てなき武道修行を進んでほしい」と述べ、審査合格者になお一層の修練と奮闘を期待すると結び盛会を締めくくった。



## 「高段者審査会 受審を終えて」

上村 雅彦

令和四年四月二十八日木曜日、京都市旧武徳殿にて「春の高段者審査会」が開催されました。

今回、私は代表理事濱田鉄心先生のありがたい御推薦を頂きまして空手道八段をご審査いただきました。

当日の審査で高段者としての形を三種演武するご指示をいただき、私は今までの武道人生の全力を出しきる思いで演じさせていただきました。

合格の結果には心より安堵しました。翌日の「創立百二十七周年記念 第六十回全国武徳祭」行事が全て終了してからは喜びが湧いてまいりました。

実は、今回の審査に向け稽古をしておりました時、昨年痛めました左膝が悪化し、審査終了後に痛みが増してきました。翌日の大会当日には正座が出来ない状態となり、役員としてのお勤めに支障をきたさないかと心配しておりました。

本番では中田先生、渡邊先生には本當に助けて頂き感謝申し上げます。心配ながらもなんとかお役を終えまして全ての安堵の元、喜びを実感いたしました。

また、今回の審査会にて数年ぶりに佐藤哲治先生と久々にお会いすることが出来ました。佐藤先生は長年の空手道修練の後、更に沖縄古伝剛柔流空手拳法を地元沖縄の先生に習われて現在は空手道の書籍執筆などをされご活躍中であられる本當に素晴らしい先生です。

今回の審査会と全国武徳祭では様々な出来事から更なる学びと喜びを頂きました。受審させていただき、心より感謝申し上げます。

来年は「創立百二十八周年記念 第六回世界武徳祭」が開催予定であります。日本国内と海外の武道家が多数参加予想される盛大な大会が、無事成功できますように願っております。

至らぬ私では御座いますが、今後多くの行事が全て大成功できますように努力させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

至らぬ私では御座いますが、今後多くの行事が全て大成功できますように努力させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

至らぬ私では御座いますが、今後多くの行事が全て大成功できますように努力させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 古武道審査を受審して

佐藤 宗琉

範士八段 大沼道州師のお導きにより、道観世宗慶先生主宰の日本武道空手協会に加盟させていただき、そのご縁のもとに栄えある一般社団法人大日本武徳会に加入させていただいて、早二十年近くとなります。

競技空手など武道スポーツの経験しかなかった私に、家伝の古武道をご教授下さり、武道の奥深さを教えて下さった大沼師に、そして、一般社団法人大日本武徳会加入の機会を下さった道観世宗慶先生に、心より感謝します。

審査当日は、呼吸の乱れ、武器と身体の一性欠如など、日頃自覚しながらも修正できずにいた課題を、審査員の先生方に看破され、厳しくご指摘いただきました。

なんとか合格を果たすことができたものの、いただいたご指摘について、今後心して稽古すべきものと胸に刻んでおります。

ともあれ、大沼師の祖父三田正道先生も在籍された大日本武徳会、その古武道七段位を許されることができました。これを励みに尚一層精進して参ります。

## コロナ禍中の昇段審査

内藤 誉

全国武徳祭前日の四月二十八日、無事六段に合格出来ました。御指導を賜った平林祐蔵先生、小松秀敏先生に厚く御礼を申し上げます。

ここ二年間はコロナ対策上それまで通りに稽古場が使えず、自宅や実家の庭にマットを敷いて何とか稽古を続けました。

そのようにして工夫した稽古は、なかなか深く身に付いた気がします。小松先生との稽古機会を無駄にせぬよう、より稽古に集中しましたし、庭での稽古はスペース上動きに制約が加わるため、逆にその動作を意識することに繋がりました。大変でしたが、結構楽しくもありました。

「六段を受けたときは、コロナで稽古場が確保できなくてね。庭にマットを敷いたりして稽古したけど、なかなか楽しかったし身にも付いたよ」と後進に語れる経緯を持てたのは、大きな財産であるように思います。

こうした時期に昇段審査の機会を設けて下さった先生方に改めて感謝を申し上げます。お陰様で良い修行が出来ました。

### 高段者審査会合格に思う

天真正伝香取神道流

岩田 一政

由緒ある武徳殿で開催された高段者審査会にて、古武道八段を充可され、深く感動しています。コロナ・ウクライナ危機の下で、審査会の開催を周到かつ綿密に準備された先生方に心より御礼申し上げます。これまで奥伝に至るまで親身なご指導を受けた杉野嘉男先生、至寛先生を始め、最初に手ほどきをうけた望月稔先生に対する感謝の念が、湧き出てきて尽きることがありません。流祖飯篠長威斎先生が、どのような太刀を振るわれたのか、最も得意とされた長物（薙刀、槍棒）、さらには柔術、手裏剣術をどのように使われたのか知りたい一心で、四十余年修行して参りました。今回の充可は、半歩なりとも流祖に近寄りたいと錬磨に励んできたことの成果であったとの思いを深くしております。この充可を次の飛躍のための糧として、日本伝統武道の源流である香取の武術、兵法の修行を一生深めて参る所存です。

### 高段者審査会を通して 気づかされた武道の精神

弓刀錬心館道場

浦上 則國

初めに、新型コロナウイルスの中、高段者審査会を開催してくださった諸先生方に厚く御礼申し上げます。

今回は、居合道六段位を受審させていただき、合格を頂きました。天候が大きく移り変わる中、審査会当日は好天に恵まれ、会場となった武徳殿には、さわやかな風が吹き込んでいました。

先生方が、どのような思いで高段者審査会を実施されているのかを、『会報武徳 二〇二二年四月春季号』で読んでおりましたので、私もその思いに恥じないようにと準備を進めて参りました。しかし当日は、三年ぶりとなる武徳殿での演武となり、思っていた以上に緊張致しました。

新型コロナウイルスによって稽古が出来ない日が続き、生活も大きく変わりました。しかしそれでも、今回の審査会を通して、諸先輩方から受け継いできた「武道の精神」が、確かに自分の中にも流れているということに、今回改めて気づくことができました。今後もこの思いを大切に、稽古に励んで行きたいと願っています。

### 栄えある最高段位八段を頂いて

天真正伝香取神道流

古武道・範士八段

樋口 勉

審査の前日、真剣で素振り程度に、体を休めるべく少し早めに、就寝したが、中々寝付かれない「あれこれ」ビデオ撮りでの欠点ばかりが頭に浮かぶ。結局眠りについたのは、午前二時頃か？そして午前四時にはスッキリ目が覚めてしまった。それではと、早めに横浜から、京都へ、審査は午後一時十五分開始。審査は

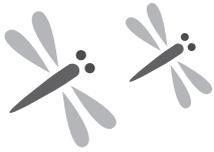
七番目、歳甲斐もなく緊張する、名前を呼ばれる寸前緊張が一気に高まる。受ける段位・氏名を言うのを忘れてしまった。二、三日前から膝の痛みはこの時点で忘れていた、諸作法も終り、さて本番そして終了。時間が経って結果の発表、果たしてと不安が過る。「合格」感動で一杯、本当に感動しました。杉野道場歴代師範。そして本日審査をして下さった先生方厚くお礼申し上げます。今後とも宜しくご指導の程。お願い申し上げます。

## 「高段者審査会に参加して」

古武道唯心会

小松 秀敏

昨年は唯心会から平林裕蔵先生が受験され範士八段に合格されて、今回は私が教士七段、内藤君が六段を受けさせていただきました。コロナ禍で、我が道場でも稽古に來れない人が多い中、練習場の担当者さんをお願いして場所をより多く確保したり稽古時間を変えたりして、内藤君と二人で稽古をしてきました。まず審査員の先生方に、今の自分の居合をみてもらう。所作は美しく優雅にを心掛け、技は静から動へ激しく力強く、残心は隙なく心落ち着かせ、刀礼は刀に感謝の意を込めて一礼する。そんな気持ちを含めて稽古をし、今回披露することができた喜びで一杯でした。結果は合格を頂きましたが、居合の修行は終わりがありません。更なる高みを目指して精進していくつもりです。



## 高段者審査会を受審して

日本伝千葉一心無双流居合兵法

千葉剣心会

杉原 陽一

令和四年四月二十八日、旧武徳殿にて居合道六段を受審し合格させて頂きました。今まで御指導して下さいました村上先生及び当流派各道場の諸先生方に御礼を申し上げます。

当日審査では、濱田鉄心代表理事挨拶の後、居合道・古武道・空手道に分かれて審査が始まりました。私は審査に臨んで礼法、抜き付け、目付、残心、納刀などに特に注意して行ないました。

演武に当り緊張のあまり礼法の所で一つミスを到しましたが無事に終了する事が出来ました。

今後、六段の品格、技量にはじないよう稽古を重ね精進いたします。今後ともご指導ご鞭撻頂きますようお願い申し上げます。

